

商 賣 道

茂 木 孤 杉

四

供給するものがあり需要するものがあつて商賣は成立する。需要者あつての供給で、供給者の爲めの需要でない。即ち買ふものは賣るものゝ爲めを思つて買ふのでなく、自己の便益の爲め、若しくは享樂の爲めに買ふのである。されば供給者は如何にして需要者に満足と與へようかを念願すべきで、如何にして之によりて利益を得ようかと考へべきではない。言ひ換へれば、商賣は利益を目的として營むべきものではない。これが私の商賣にたづさわるとも、の始めから抱いて來た私の商賣觀である。利益を得なくては商賣がやつて行けぬと云ふが、正しい商賣をすれば正しい利益が必らず與へられる筈だ。孟子は王必らずしも亦利を云はん唯仁義あるのみと云はれたさうだが、王者の道ばかりでない、商賣も唯仁義あるのみでやつて行けぬ事はない。世人悉く商賣を以て金儲けの手段として居る。よし私は利益を目的としないで商賣をやつて見よう、これが商賣嫌ひな私をして起たしめた理由であつた。かくて私が此野田の地をあとに朝鮮に赴いたの

は明治卅九年の四月であつた。爾來二十年此信念の下に商賣を續け商賣の常套手段である所謂驛引をやらずに通つて來た。創業後幾何もなく大火災に遇つて事業の根柢を危ふくした事もあつたが、どうにかこうにか切り抜けて少ない乍らも利益を擧げて來る事が出來た。時折私は此主張を人に語つた事もあるが、殆んど共鳴者を見出さなかつた許りでなく、随分激しい非難をも聞かされた。商人としての才能を恵まれない私が、曲りなりにも事業の經營を續けて、此主張を以てして商賣が成立し得られるといふ事を實際に證據立てる事の出來たのは、私としての無上の喜びである。此頃アメリカの自動車王と呼ばれる「フォード」の傳をよんで、『奉仕を主とする事業は榮え、利得を主とする事業は亡ぶ』と彼が叫んで居るのを知つた。供給者として如何にして需要者に満足と與へようかと考へるのは、やがて奉仕の精神ではあるまいか。私は二十年來の私の主張が、千里の外に於て巨人「フォード」によつて裏書された事を非常に欣幸と感ぜざるを得ない。勿論彼の異常な成功は、彼の卓絶した才能と異常な努力に俟つ所大ではあるが、彼のモットーとする所が彼の成功を妨げなかつた事は事實であろう。否否、彼の異常な成功は、其主張を力強く嚴格に實行した事によつて築き上げられたものであらねばならぬ。私は異常な成功によつて裏書づけられた彼のモットーが、多くの人の認容する處となり、儲ける爲めの商賣と云ふ觀念が一掃されて、

五